

1.長期成長ビジョン

大型遠心分離機の新興国を中心としたグローバル需要の拡大を成長機会と捉え、コア技術である「遠心分離」を軸に、当社グループ及び事業の全体最適化により、研究・開発、生産、海外販売体制を強化。グローバルシェア拡大に向けた取り組みを加速させる。

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

遠心分離テクノロジー×化学分野の専門性で
遠心分離機の世界トップクラスのメーカーに躍進する

①インドや東南アジアを中心としたグローバル展開の加速

- 国内トップクラスの大型遠心分離機メーカーとして、化学工業をはじめとする特殊分野におけるグローバル展開をさらに推進。グローバルニッチトップとして市場シェアNo.1を目指す。

②巴グループ全体での遠心分離機生産の最適化と国内生産体制の強化

- 巴工業及び巴マシナリー（共同申請者）の生産拠点統合を通じて、生産・研究・物流機能の合理化、強化を推進。国内サプライチェーンの強靭化と機能集約により、高付加価値なモノづくりを実現するための新たな生産体制とイノベーションの基盤を構築する。

③事業間シナジー発揮と持続可能な社会の実現に向けた付加価値の提供

- 化学品卸売事業と遠心分離機事業（補助事業）という二本柱の連携によるシナジーを最大化すると共に、環境負荷低減型製品の開発や地域人材・サプライチェーンへの投資を通じて、地域社会と地球環境に貢献する持続可能な価値提供を進める。

会社全体の売上成長目標

単位：百万円

社名	売上高 2024年10月期	売上高 2030年10月期	売上高 増加額	売上高 成長率
巴工業（株）	47,315	73,000	25,685	54.3%
うち機械事業	11,541	23,000	11,459	99.3%
巴マシナリー（株）	565	1,000	435	77.0%
コンソルティウム	47,880	74,000	26,120	54.6%

会社全体の貢上げ目標

期間	巴工業	巴マシナリー
直近事業年度～基準年度	CAGR2.9%	CAGR2.9%
基準年度～事業化報告3年目	CAGR5.0%	CAGR5.0%

当社及び共同申請者の概要

当社は、遠心分離機を中心とした機械の製造販売事業と化学品の卸売事業を展開している。遠心分離機とは、回転による遠心力をを利用して、液体や固体の混合物を効率的に分離する装置であり、化学工業、食品、医薬品、水処理など幅広い用途で使用されている。当社は大型遠心分離機メーカーとして70年を超える老舗であり、国内トップシェア、世界シェアでも5位以内に入る。また、共同申請者の巴マシナリー（当社の100%子会社）は遠心分離機におけるスクリュウコンベアなどの主要部品製造を担う中核企業である。

外発的動機

メガトレンド

- インドや東南アジアをはじめとした新興市場の成長、社会インフラ整備の加速
- 持続可能な社会実現に向けた、SDGs等への取り組み加速
- 自動化、デジタル化、AI等の最新テクノロジーへの注目
⇒大型遠心分離機は世界的に需要が拡大。高付加価値化への期待も高い。

成長機会

- インドを中心とした化学工業・水処理・食品加工分野等の成長拡大
- インドネシア等東南アジアにおけるインフラ需要の拡大
- 国内における食品、医薬品、リサイクル等の先端分野の研究・開発の加速
⇒特にインドにおける化学工業分野の成長が当社にとって大きなビジネスチャンス

リスク・脅威

- 国内における将来的な当社主力製品（大型遠心分離機）の成長鈍化
- 米国での政権交代に伴う貿易政策の不確実性など貿易リスクや地政学リスク
- 国内の労働人口減少を受け、人材の確保・育成、生産性向上が共通課題

内発的動機

①グローバルでの成長と事業間シナジーの加速

当社はメーカーと商社の機能を併せ持つ独自の体制で、経済的な困難も両部門の相互補完により乗り越えてきた。国内市場が人口減少などで縮小する中、当社が持つ高精度・高効率な遠心分離機技術をさらに活かすには、グローバル市場での拡販が不可欠である。今回の大規模成長投資により、機械事業の技術力と供給体制を飛躍的に強化し、インドやASEAN、欧州における化学品事業との連携によるシナジー創出を加速する。ESG経営のもと、社会課題の解決と企業価値向上を両立させ、100年企業としての地位確立を図る。

②高い技術力・ブランド維持と国内拠点の重要性

当社遠心分離機が高い評価を得ている背景には、主要回転部品における極めて高い加工精度と、それを支える製造体制がある。しかしながら、こうした精度要求は海外加工業者では対応困難である。一方、国内では限られた高度加工業者との協業が可能であり、巴マシナリーと巴工業が隣接地で部品製作から組立・試運転まで一貫して行う体制が、技術蓄積・技能承継を支えている。これらはブランド価値を維持し、完成品メーカーとしての競争優位を確立する上で不可欠であり、国内製造の継続こそが国際競争力強化の鍵であると考える。

2.補助事業の概要

当社機械事業における海外でのシェア拡大及び国内でのキャッシュフロー最大化に向け、中核製品である遠心分離機の生産拠点の統合による巴グループの最適化及び生産規模拡大・省力化への設備投資を行い、労働生産性を飛躍的に向上させる。

補助事業の背景・目的

当社グループは、拡大するインドをはじめとしたグローバル市場における需要獲得を加速している。一方で、現在の生産体制は複数拠点に分散し、生産能力やリードタイム、物流面での非効率が成長のボトルネックとなっている。本補助事業では、生産・開発・実機テスト機能を一体化した新拠点を整備し、QCDの抜本的強化と共に、グループ全体の競争力を飛躍的に高めることで、国際市場でのシェア拡大と成長基盤の確立を図る。

事業費
(補助額)52億円
(13億円)

設備投資の内容

現状の課題

- 機械事業における売上高成長の持続・加速のためには、インドをはじめ海外市場における需要を取り込む必要があるものの、生産能力が律速となっている。(規模拡大の必要性)
- 複数拠点間でのモノやヒトの移動が発生し、生産性が低下。(物流・工程のムダ)
- 主要部品においては職人の手作業への依存度が高いなど、生産効率に課題がある。

設備投資の内容

- 神奈川県綾瀬市に、新たな主力工場を新設し、複数拠点を統合する。
- 新工場では、生産スペース拡大と共に、最先端のレーザー金属積層造形機等を導入するなど、生産能力拡大及び生産の自動化・24時間化を図る。
- 新工場には防爆構造の新実機テスト棟を併設し、実機テスト対応の高度化も図る。

課題解決による労働生産性の向上

- 生産・物流機能の一体化により、リードタイム短縮とコスト最適化を実現
- 海外市場向けを中心とした大型機の生産能力の大幅な拡充による、売上規模の拡大
- 自動化・省力化による労働生産性の向上と、収益性の高い製品群へのシフト



新工場建設(完成イメージ)



レーザー金属積層造形機等の自動化設備導入



実機テスト等の高度化・対応強化

目標値

項目	2027年10月期(基準年度)							2030年10月期(基準年度+3年後)							巴マシナリー	
	巴工業							巴マシナリー								
	補助事業全体	神奈川	東京	大阪	福岡	宮城	北海道	神奈川※1	補助事業全体	神奈川	東京	大阪	福岡	宮城	北海道	神奈川※1
労働生産性 (単位:円万/人)	1,260	-	-	-	-	-	-	696	2,011 CAGR+16.9%	-	-	-	-	-	-	983 CAGR+12.2%
従業員1人あたり 給与支給総額 (単位:円万/人)	952	944	970	964	925	921	761	604	1,101 CAGR+5.0%	1,093 CAGR+5.0%	1,123 CAGR+5.0%	1,116 CAGR+5.0%	1,071 CAGR+5.0%	1,066 CAGR+5.0%	881 CAGR+5.0%	699 CAGR+5.0%
役員1人あたり 給与支給総額 (単位:円万/人)	5,013	-	5,013	-	-	-	-	該当なし ※2	5,803 CAGR+5.0%	-	5,803 CAGR+5.0%	-	-	-	-	該当なし ※2
補助事業に係る 従業員数 (単位:人)	284	155	94	23	6	3	3	33	315 CAGR+3.5%	170	104	26	7	4	4	40 CAGR+6.6%

※1 巴マシナリーは神奈川県にのみ拠点を有している。

※2 巴マシナリーの役員(1名)は、巴工業の従業員であり巴工業から給与を支給している。そのため、本計画では巴工業側の給与支給額及び従業員数に含めて算出している。